

12/4の練習では、いままで譜読みしたところを「合わせて練習」しました。

ハイドンはキリエからグロリアの前半まで。モーツァルトはキリエ～グロリアの76小節目まで合わせましたよ。

改めて！今回の曲目のこと、ネット受け売り情報(^^♪ お友達を誘うとき「こんな曲だよ～」と宣伝しよう

♪ ハイドン「ハイリッヒミサ」(1796年・74歳)

●まず「ハイドン後期六大ミサ」についておさらい。

ハイドン(Franz Joseph Haydn, 1732. 3. 31-1809. 5. 31)は、生涯の殆どをオーストリア エステルハージ家に仕え、楽長、作曲家としてだけでなく楽団員のとりまとめ、新曲の演奏家出演交渉など侯爵家の音楽全てを仕切っていました。1790年、当主の交代のタイミングで一時期侯爵家を離れますが、1794年ニコラウス二世がエステルハージ家の当主となると、再びハイドンは呼び戻され、ニコラウス二世の命により、夫人のマリア・ヘルメネギルトの命名日の祝祭のために、毎年新しいミサ曲を作曲する事となりました。これが「後期六大ミサ」です。作曲年としては1796年「パウケン・ミサ」「ハイリッヒミサ」、1798年「ネルソン・ミサ」、1799年「テレジア・ミサ」、1801年「天地創造ミサ」、1802年「ハルモニミサ」。当時のヨーロッパはフランス革命→ナポレオン、という時代が揺れに揺れたとき。6曲それぞれにその時々状況が反映されています。

大阪フロイデはこれまで、ネルソン、テレジア、天地創造、パウケン・ミサを演奏。今回はシリーズ第5弾。

●「ハイリッヒミサ」とは

「ハイリッヒミサ」は「オッフイダの聖ベルナルドのミサ」の名称もあります。オッフイダのベルナルドは17世紀のカプチン・フランシスコ修道会の僧で、1795年5月19日に教皇ピウス6世によって列福。その聖名祝日である9月11日が、エステルハージ侯爵ニコラウス2世夫人マリア・ヘルメンギルデの聖名祝日である9月8日に近いため、両人を兼ねて賛美するためにアイゼンシュタットのベルク教会で1796年9月に初演されました。ちなみに、パウケン・ミサの初演は同年の12月ウィーン。ということは「ハイリッヒミサ」の方が先？6大ミサの1番目？「ハイリッヒ」とは、本曲のサンクトゥスの中にオーストリアの古い教会音楽「Heilig, heilig, heilig, du bist allzeit heilig」が引用されていることによる(ハイリッヒはサンクトゥス(聖なる)に相当するドイツ語)。ちなみに、パウケン・ミサ、ネルソン・ミサと「・」が入りますが、ハイリッヒミサ、は入りません。(入って記載されているものもありますが、入らないのが正しいような)「聖なるミサ」というひと続きの言葉だから、でしょうかね(^-)-☆お祝いの気持ちがこもった、華やかで美しい音楽です。

♪ モーツァルト「パストラル・ミサ K140」(1773年・17歳)

この曲は、最初、偽作とも言われたりして紆余曲折の扱いでしたが、今では、モーツァルト1773年ごろザルツブルクでの作曲作品として「ホンモノ！」となりました。このころモーツァルトにとって大きな事件がありました。実はその前々年1771年12月、モーツァルト父子の最大の理解者だったシュラッテンバッハ大司教が亡くなったのです。父子の落胆は大きかった。そして1772年3月悪名高きコロレド大司教(音楽に無理解なだけで、司教としては偉かったかも、知らんけど)が就任しました。モーツァルト父子はこの段階では予定されていた演奏旅行を許されて、各地を回っています。1773年のザルツブルク滞在は、イタリアから戻った3月から7月にウィーンに旅立つまでの4ヶ月間でした。ザルツブルクでは、コロレドの就任儀式関連の作曲を精力的に行ったようです。

この曲もザルツブルクの司教座聖堂用に描かれたものと考えられています。「パストラル(キリストの聖誕のときの羊飼いにちなんで、クリスマスに演奏される8分の6拍子や8分の12拍子の子守歌風の曲)のミサ曲であることから、1773年の聖誕祭のために作曲されたと考えられる(モーツァルト全集校訂者・ワルター・ゼーン)」。

つまり、クリスマスのための優雅な音楽ってことですよ～。おともだちにも、この曲のこと、教えてあげよう！